

【要旨】消滅危機言語である琉球諸島沖永良部島の言葉（琉球沖永良部語）は、国頭集落を例にすれば、1977年生まれの頃を境に伝統方言の理解度が低下し始める（横山 2018 他）。本論では、同集落出身者 11 名からの聞き取りを元に、伝統方言の世代間継承を減退させた可能性のある要因：方言禁止教育、家庭内使用言語、マスメディア、集落内婚の減少について、その妥当性を検討する。まず、方言禁止教育を受けた世代と、子への使用言語として、方言ではなく共通語を選択した世代の登場時期は一致する。また、家庭内使用言語から方言が消えた世代と、伝統方言の理解度が低下する世代の登場時期は一致する。一方、マスメディアの多角化と集落内婚の減少は、伝統方言の理解度の低下と直接的な関連は見られない。以上の結果から、方言禁止教育は家庭内使用言語に影響し、家庭内使用言語の変化は方言衰退に影響を及ぼした可能性を指摘することができる。

1. はじめに

琉球諸語の世代間継承が途絶えつつあることは、地域の人や現地調査を行う研究者に共通した認識だが、実際にどの程度言語の衰退が進んでいるかについての実証的な研究は少ない。Yamada et al.

(2018) は、言語実験によって危機言語の世代間継承の実態を調べる手法を提案し、横山 (2018)、横山・籠宮 (2019) はその手法を用いて、鹿児島県奄美群島沖永良部島 (図 1 参照) 国頭集落における伝統方言の世代間継承について調査した。その結果、40 代以上は高い伝統方言理解度（以下、理解度と呼ぶ）を有する一方で、40 歳前後で理解度が若干低くなり、更に下の世代になると年齢が若くなるにつれて理解度も急激に低くなることが明らかになった (図 2)。

本論は、先行研究の検討と同集落出身者への予備的聞き取り調査を元に、伝統方言の衰退をもたらした背景にある言語生態の変化について考察するものである。



図 1. 沖永良部島の位置

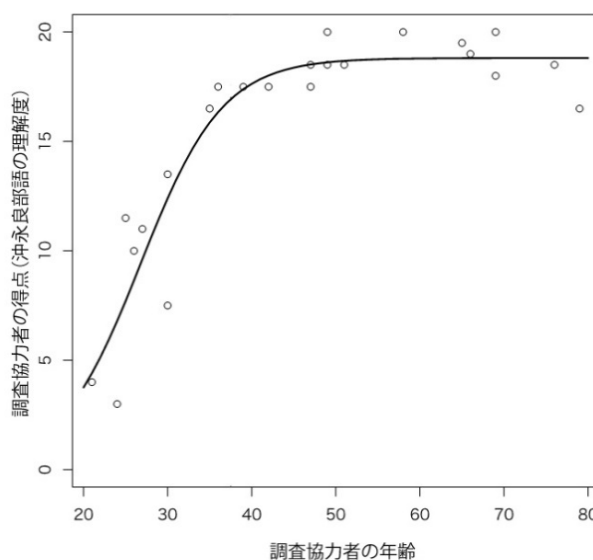


図 2. 年齢による理解度の推移

注. 横軸：調査協力者の年齢

縦軸：理解度テスト得点（20 点満点）

2. 研究方法

調査地は、横山・籠宮（2019）との比較を可能にするために、沖永良部島国頭集落とした。理解度が低くなった理由、つまり世代間継承が中断した要因を可能な限り多く洗い出すため、また、社会変容が集落に与えた影響を多面的に分析できるよう、様々な世代の集落出身者（以下、協力者と呼ぶ）から満遍なく聞き取りを行うことにした。まず、日常的に方言が使用されていた時代を知る 70 代以上の協力者 3 名に対し、質問を限定せずに生い立ちや日常生活などについて幅広く聞き取る非構造化インタビュー（unstructured interview）（Daymon, 2011）を行った。次に、学校での方言禁止教育や標準語教育、言語選択の状況、各種メディアが島内に到達した時期、日常生活の様子、進路選択、就職、婚姻など、すべての協力者に対して確認する主題を幾つか定めた上で、70 代以下の協力者にも聞き取り調査を行った。なお、本稿では各協力者を「出身集落・年齢・性別」からなる ID で表す。国頭集落はローマ字の頭文字を取って kng とし、年齢は世代間継承調査を行った 2017 年を基準とし、男性は m（male）、女性は f（female）とした。調査協力者の一覧を表 1 に示す。

表 1. 調査協力者一覧

ID	年齢	年代	性別	日常的な方言使用 ¹	聞き取り時期	備考
kng92f	92	90 代	女	有	2018 年 8 月	
kng73m	73	70 代	男	有	2018 年 11 月	
kng72m	72	70 代	男	有	2018 年 7 月,10 月	
kng71m	71	70 代	男	有	2018 年 10 月	聞き取り調査に同席
kng70m	70	70 代	男	有	2018 年 8 月	
kng65f	65	60 代	女	有	2018 年 11 月	
kng58f	58	50 代	女		2018 年 11 月	
kng49f	49	40 代	女		2018 年 11 月	
kng42m	42	40 代	男		2019 年 3 月	メールでの聞き取り
kng36m	36	30 代後半	男		2018 年 11 月	
kng30m	30	30 代前半	男		2018 年 8 月	

聞き取り時は、その場でフィールドノートに記録するだけでなく、協力者の許可を得て録音も行った。録音データは書き起こし、スプレッドシートで管理した。一続きの発言をひとまとまりとして行番号を振り、さらに発言内容が前述の主題に関連しているかどうか照合した。関連していれば、タグ付けして主題と行番号を紐づけておき、主題ごとに関連する発言を参照できるようにした。協力者の発言を引用する際は「聞き取り年月日：行番号」で表した。

3. 研究結果

すべての協力者に確認した主題のうち、方言の衰退に関連しそうな 4 つの要因「学校での方言禁止教育」「家庭内の言語選択」「各種メディアが島内に到達した時期」「集落内婚」について報告する。

¹ 目上の人や友人と日常的に方言で話すと答えた協力者を「有」とし、それ以外を空欄としている。

3-1. 方言禁止教育

沖永良部島において、学校で方言の使用を禁止したり、咎める教育（以下、方言禁止教育と呼ぶ）は、2度行われたようだ。高橋（2007）によると、本土への出稼ぎが始まる1907年（明治40年）頃には「方言普通語対照表」を使う（和泊小）、方言札を使う（大城小）などの方言禁止教育が島内各地でなされていた。しかし、1度目の方言禁止教育は戦前までには収束したようで、1932年（昭和7年）に国頭小学校に入学したkng92fは方言を禁止する教育を受けた経験がない（20180816:2）。

再び方言禁止教育がなされるようになったのは、奄美群島が日本に復帰し、再び本土への進学、就職が容易になった1953年（昭和28年）頃からのようである。kng73m, kng71mが「復帰後に方言禁止を言われるようになった（20181125a:239; 20181012:9）」と述べており、帰りの会で方言を話した人が報告され「方言を話すと定規でパシッと叩かれた（kng72m, 20181012:2）」「掃除当番をさせられた（kng58f, 20181124:66）」「立たされた（kng49f, 20181123:111）」などの罰があった。方言を禁止する理由は「奄美出身者は共通語を話せず、いじめられることがあったので、都会に出る時に困らないように（kng71m, 20181012:469）」「就職とか進学をすると方言が笑われるから（kng49f, 20181123:120）」等と説明されており、進学・就職で卒業後ほとんどが島外へ出る生徒たちには「そういうもんか、という気持ちだった（kng71m, 20181012:469）」「それが当たり前だと思っていた（kng49f, 20181123:232）」等、当然のこととして受け入れられたようだ。2度目の方言禁止教育は1970年代後半から1980年代に終わったようで、1975年に小学校に入学したkng49fは方言禁止教育を受けた記憶があるが、1982年に小学校に入学したkng42mにはこうした記憶がない。

その後、1980年代後半（昭和60年代～）以降は方言の扱いが変化する。「高校の時は（方言禁止が）全然なかった。むしろ先生方が公にしゃべった（kng49f, 20181123:262）」など方言が禁止されなくなっただけでなく、方言の大切さが説かれ始め、1987年に和泊町立城ヶ丘中学校の生徒が「方言の大切さ」という題で大島地区中学弁論大会最優秀賞になるなど（高橋2007）、方言は禁止から奨励の時代へと変わっていった（酒井2018）。

こうした方言禁止教育を受けた年代と伝統方言の理解度を比較したのが図3である。図示されているように、方言禁止教育を受けた世代の理解度が低い訳ではない。すなわち、学校教育が伝統方言の理解度の低下に直接影響したとは言えない。

年齢	20	30	40	50	60	70	80
方言理解度	急激に低下		低下傾向	話者もしくは話者と同程度に理解可能			
方言禁止教育	なし			あり		なし	
	小学校入学(1982) kng42m			小学校入学(1975) kng49f	日本復帰(1953) kng71m, kng73m	小学校入学(1932) kng92f	

図3. 方言禁止教育と伝統方言理解度の比較

方言禁止教育は言語能力そのものより、言語選択や言語意識と関連があると考えられる。表2は、協力者が方言禁止教育を受けた経験と、彼らが自分の子に対して使用する言語をまとめたものである。方言禁止教育を受けた協力者は、例えば日常的に方言を話す能力があっても（kng65f以上）、自分の子に共通語を使用していることが分かる。

kng72mの発言「夫婦で『標準語で話し掛けよう』と」決めた訳ではない（20181125-865）」やkng70mの発言「雰囲気だね、集落の人たちの。子どもが生まれて、子どもにあやすとき、方言よりは

共通語で（20181125-858）」などから、このような言語選択は必ずしも強制的なものではなく、自然と“子には共通語を使うのが普通だ”という雰囲気が地域に生まれたと考えられる。

表 2. 方言禁止教育の経験有無と、子への使用言語

	kng 30m	kng 37m	kng 42m	kng 49f	kng 58f	kng 65f	kng 70m	kng 72m	kng 71m	kng 73m	kng 92f
方言禁止教育の経験	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	無
子への使用言語	共通語										方言

また、今でも日常的に方言を使用するという kng65f 以上の年齢の協力者は、方言禁止教育を受けても「（特に方言が悪いという意識は）なかった（kng65f, 20181125: 970）と述べているが、kng65f より年下の調査協力者は、「方言は悪いことという意識が生まれた（kng58f, 20181124: 60）」「罪悪感が生まれた（kng49f, 20181123: 148）」など、方言に対する意識に影響があったと述べている。こうした方言イメージが衰退に拍車をかけた可能性がある。

3-2. 家庭内の使用言語

今回調査した協力者 11 名の家庭内使用言語をまとめたものが表 3 である。協力者が子の場合だけでなく、協力者が親として子に話しかける場合についても聞き取った。親が伝統方言と共通語のバイリンガルである場合、親から子への言語選択は発信側の能力よりは聞き手側の能力に左右されるため、親の年齢ではなく子の年齢を基準にまとめた²。（1）kng58f 以上の協力者は、子供時代に親から方言で話しかけられており、親同士の会話も方言である。（2）40 代後半は、親から共通語で話しかけられているが、祖父母同士・父母同士は方言を使用していた。（3）40 代前半以下は、親から共通語で話しかけられており、親同士の会話もまた共通語であった。なお、祖父母や親に対して方言で返答していたのは kng65f 以上の協力者であった。

表 3. 家庭内の使用言語

言語使用域 \ 年齢	(3) 40 代前半以下	(2) 40 代後半		(1) 58 歳以上
	9* 10* 12* 19# 22# 25# 26# 30 31 † 36 39 † 41 †	48 §	49	58 59' 61' 63' 64' 65 67' 70' 72 92
祖父母間	共通語／別居	方言		方言
父母間	共通語	方言		方言
祖父母→本人	共通語	不明	共通語	方言
父母→本人	共通語	共通語		方言

注. * kng36m の子, # kng49f の子, † kng65f の子, § kng74m の子, ' kng92f の子,
30: kng30m, 36: kng36m, 49: kng49f, 59: kng58f, 65: kng65f, 72: kng72f, 92: kng92f

² kng49f の証言「9 人兄弟のうち上から 5 人までは、親から子へも兄弟同士も全部方言だが、それ以下に対しては親が絶対に標準語を使った（kng49f, 20181123: 60-89）」が象徴的である。

図4は、家庭内使用言語と方言の理解度を比較したものである。図示されているように、方言の理解度が下がり始める年代（40歳前後）と、家庭内で方言の使用が無くなる年代が、ほぼ重なることが分かった。このため、家庭内の使用言語が理解度に影響している可能性がある。ただし、30代後半以下の急激な理解度の低下は家庭内使用言語の変化では説明できず、他の要因の検討が必要である。

年齢	20	30	40	50	60	70	80
方言理解度	急激に低下		低下傾向	話者もしくは話者と同程度に理解可能			
家庭内の方言使用	なし			あり	あり（方言で話しかけられる）		
	(共通語で話しかけられる)			kng65f~ 方言で返答する			
	(3) 40代前半以下 9* 10* 12* 19# 22# 25# 26# 30 31† 36 39† 41†			(2)40代後半 48 \$ 49		(1) 58歳以上 58 59' 61' 63' 64' 65 67' 70' 72 92	

図4. 家庭内使用言語と伝統方言理解度の比較

3-3. マスメディア

方言が主要言語として用いられていた時代に、標準語に触れる機会はマスメディアに限られていた。国頭集落の家庭では、東京オリンピックがあった1964年前後から、テレビが少しずつ導入されたようだ（「オリンピックの時、学校にテレビがあった（kng71m, 20181125a: 891）」「この頃（1964年前後）友達の家でテレビを見に行っていた（kng59f, 20181124: 168）」）。

ラジオはテレビより早くからあったが、電気不足のため日常的なメディアとしては用いられていなかった（「ラジオはあるところにはあったが、真空管のラジオで、電気がないからつけられなかった。学校で夏休みにラジオ体操するときは、発電機を使っていた（kng72m, 20181012: 214-219）」）

テレビやラジオの他に標準語に触れる機会として、40代後半から70代の調査協力者は巡回映画を挙げた（「青年団がお金を借りて、年に2~3回、小学校の校庭などで無料映画を見せることがあった。町には有料の映画館があり、みな壁の穴から覗き見ていた（kng72m, 20181012: 114）」）。

図5は幼い頃にテレビに触れる機会があった年代と、方言の理解度を比較したものである。図示されているように、幼い頃からテレビに触れていた年代と理解度が低い年代は重ならないことから、直接の因果関係があるとは考えにくい。しかし、テレビや雑誌によって東京への憧れと、その言葉への意識が生まれたという発言があり、テレビを代表とするマスメディアは方言というより共通語に対する言語意識に影響を与えた可能性がある（「テレビできれいな女優さんが『きれいな言葉』を話すから、それに憧れていた（kng59f, 20181124: 170）」「週刊誌を見てヤマト[筆者注：本土のこと]に憧れていた（kng65f, 20181125: 505-510）」）。

年齢	20	30	40	50	60	70	80
方言理解度	急激に低下		低下傾向	話者もしくは話者と同程度に理解可能			
テレビ	あり				幼少期に登場 kng59f kng71m, kng72m		なし
巡回映画	kng49f				視聴経験あり kng72m		

図5. テレビの導入と伝統方言理解度の比較

3-4. 集落内婚

かつては結婚相手を親が選ぶことが多く、いとこ婚や、同じ集落内の者との結婚が一般的であったようだ（「この頃[筆者注：1945 年]は集落内結婚が多く、他集落からくることはあまりなかった」（kng92f, 20180812: 1149）。その理由として、kng72m は「財産を身内で分けた方がいい、風習が同じ方がいい、などの理由ではないか（20180817:1246）」と述べている。また kng72m が「子供の頃には、ヨソ（の集落）に行ったら殺されるんじゃないか、という恐怖感があった（20180714:206）」と述べるように、集落外との接触が限られていたことも影響していると考えられる。

しかし、こうした慣習は徐々に薄れていく。1970 年代中ごろには、集落内婚が優勢なものの、他集落出身者との結婚も徐々に増加してきたようである（「（1976 年時点では）まだ集落内婚が多い方だったが、何年かするうちに他集落同士というのが流行ってきた（kng66f, 20181125: 1483）」「（1977 年時点では）半分くらいは集落の外の人と結婚していたのではないか（kng70m, 20180817: 647）」）。

そして1990年代以降は、kng49fが「（1991年時点では）集落内婚は珍しかった（20181123a: 115）」と述べており、現代ではかつての慣習は殆ど意識されなくなっている（「今では、他集落や他町出身者と結婚しない、ということはない（kng31m, 20180814: 506）」）。

島内には方言差が存在し、他集落出身者との婚姻が夫婦間の言語選択に影響を与えるのではないかと考えたが、今回の調査の範囲では、集落内婚をしている協力者と、夫婦間で方言を使用する協力者は完全には一致しなかった。沖永良部島には相互理解度が低下するほどの方言差はなく（横山 2017）、集落外婚が夫婦間の言語選択に与える影響は相対的に低いと考えられる。

表 4. 調査協力者の結婚相手と夫婦間使用言語

	30m	37m	42m	49f	58f	65f	70m	72m	71m	73m	92f
配偶者	—	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎
夫婦間使用言語	—	共通語					方言				

注. ID の kng は省略, — は未婚, ○ は島内の他集落出身者, ◎ は集落内婚である。

4. まとめと今後の課題

3 で検討した 4 つの要因と理解度を比較して図 6 に示した。図示されているように、家庭内から方言の使用が消えた世代と、理解度が下がり始める年代（40 歳前後）がほぼ一致することから、家庭内使用言語は理解度に直接影響を及ぼしている可能性があるといえる。さらに、方言禁止教育を受けた世代の協力者は、子に対して共通語を使っていることも明らかになった。方言禁止教育は、“子には共通語で話しかける”という雰囲気を醸成し、協力者が親になったとき、子に対して方言を使わなかった動機の一つであると考えられる。つまり、方言禁止教育は家庭内使用言語に一定の影響を与えた、という点では間接的に理解度にも影響を及ぼしたと考えられそうである。

今後は、協力者の人数を増やすことで、同一の事象に対して様々な意見を汲み取り、かつ情報の精度も上げられるようにしていく。また、言語使用などは性差が影響することもあるので、各世代の協力者の内訳が男女均等になるようにも配慮する。今後、特に解明していく必要がある課題は、30 代後半以下の人々が経験した言語生態やその変容を説明することである。彼らは、家庭内の使用言語の状況が共通語を使用するという点で同様であるにも関わらず、年齢によって理解度の程度が大きく異なっている。聞き取りでは、「仕事（看護師）で（島に）帰ってきたら、老人は（私が）島の子だとい

うと喜ぶので、方言が出てくるようになった (kng49f, 20181123a: 238-251)」、「社会人になってから (方言話者である年長者との) 飲み会が増えて方言の理解度が上がったと思う (kng37m, 20181122: 366-380)」といった証言があった。これら証言は、職場での言語使用の影響で、成人後に理解度が向上した可能性を示唆している。これは沖縄本島の言語衰退の社会的背景について論じた Anderson (2014: 131) でも仮説 "casual use of Uchinaaguchi in the work domain supported semi-speaker second language acquisition even after intergenerational transmission loss in the home domain" として提示されており、沖永良部語の場合でも今後検討の余地がある。

年齢	20	30	40	50	60	70	80
方言理解度	急激に低下		低下傾向	話者もしくは話者と同程度に理解可能			
方言禁止教育	なし kng42m			kng49f	kng71m,kng73m		あり なし kng92
家庭内の方言使用	なし (共通語で話しかけられる) kng65fの子(41)			あり kng49f	あり（方言で話しかけられる） 方言で返答する kng58f kng65f kng92		
テレビ						幼少期に登場 kng59f kng71m,kng72m	なし
集落内婚	集落外婚を避けることはない kng31m		"珍しい" kng49f	"半分くらい" kng66f kng70m			一般的 kng92

図 6. 4 つの要因と伝統方言理解度の比較

引用文献

- 酒井正子 (2018) 「禁止から尊重、奨励へー奄美のシマ言葉の変遷ー」『口承文芸研究』41: 131-139.
- 高橋孝代 (2007) 「琉球語とエスニシティー沖永良部方言の衰退と復興を中心にー」『こども教育宝仙大学紀要』8: 101-108.
- 横山晶子「しまむにの世代間継承度を測定する～若い人たちはどれくらいしまむにが分かるのか?～」えらぶ郷土研究会. 2017/11.
- 横山晶子「琉球沖永良部国頭方言の世代別言語継承度」日本方言研究会、東京、2018/5.
- 横山晶子・籠宮隆之 (2019) 「言語実験に基づく言語衰退の実態の解明ー琉球沖永良部島を事例にー」『方言の研究』近刊予定.
- Anderson, Mark (2014). Language shift and language loss. In Mark Anderson and Patrick Heinrich (Eds.), Language Crisis in the Ryukyus (pp. 103-139). Newcastle-upon-Tyne: Cambridge Scholars Publishing.
- Daymon, Christine., & Holloway, Immy. (2011). Qualitative research methods in public relations and marketing communications: New York, NY: Routledge.
- Yamada, Masahiro, Yukinori Takubo, Shoichi Iwasaki, Celik Kenan Thibault, Soichiro Harada, Nobuko Kibe, Tyler Lau, Natsuko Nakagawa, Yuto Niinaga, Tomoyo Otsuki, Manami Sato, Rihito Shirata, Gijs van der Lubbe and Akiko Yokoyama. "Experimental Study of Inter-language and Inter-generational Intelligibility: Methodology and Case Studies of Ryukyuan Languages". The 26th JK. LA, USA. 2018/11.

※ 本研究は、若手研究「危機言語コミュニティにおける言語生態系と言語移行の関係ー琉球沖永良部語を事例にー」(18K12392)の助成を受けた成果です。